

# 壁を照明器具にする

～ 器具を選ぶな 素材を選ぶ ～

できないという事。

では、優れた建築の照明は？ というト  
ダウンライトは出来るだけ小型でグレア  
レス。配灯ピッチと配光角度を気にして、  
壁面に当たる光の質を考える。床面より  
も壁面にフォーカスする。壁の面積が大  
きければ大きいほど壁そのものが発光し  
ているかのように見えるように壁面素材  
を気にする。不快なグレアがないからこ  
そ感じる「明るさ感」である。ここでと  
ても大事なことは、壁面素材と光の関係  
性。素材の色がライト系であれば光が反  
射して少ない光量（ルーメン）でも明る  
く感じる。逆にダーク系であれば光は吸  
収され光量をふやしても明るさ感確保  
できない。素材によって光の量は変わる

照明器具はどいつ？  
優れた建築には照明器具の存在がない  
ことが多い。一般的な照明設計は、建築  
設計図を受け取ってその平面図に合わせ  
て照明器具選定し配灯する。ダウンライ  
トやスポットライト、意匠系のペンダン  
トライトやブラケットライトを選び明る  
さの確保と同時にインテリアデザインも  
考える。展開図があれば立体的に考える  
ことが出来るので照明設計の精度は上  
がる。

## 照明器具はどいつ？



## 灯りコラム Vol.56



これは照度計算で、このくらいの広さの  
空間ならこのくらいの光量というマニ  
ユアルでは解決できないことを意味する。

1畳あたり300〜500ルーメンが基  
本とするマニュアルに頼るな！というこ  
とである。目安として覚えておいても良  
いが、教科書通りにはいかないという事  
も覚えておいて欲しい。特にダウンラ  
イトやスポットライトの場合、配光角度  
を決める必要がある。これを間違えると  
せつけく選んだ素敵な壁面素材の演出が  
台無しになりかねない。光のムラが生じ  
壁面の違和感に繋がりが、建築そのもの  
価値が低下することを意味する。なんと  
ももったいない話であるが、今もなおそ  
のような現場は多々あるのも事実なので  
す。

では、こうならぬためにはどうすれば  
よいか？

自信を持って間違いがないのは、間接照  
明（建築化照明）を検討し、壁面素材の  
色はライト系を推奨すること。

但し、造作が伴うため、内装工事費の予  
算を確保する必要があるが、予算以上の  
価値を得られることは言うまでもない。  
間接照明の場合、照明器具が見えない配  
灯計画が必要となるが、同時に光を仕込  
む位置によっても空間の表情が大きく変  
わることも忘れてはならない。



株式会社 灯り計画

提 案 照 明 計 画 切 口 暮 ら しの  
イ カ ン テ 幅 を 広 げ 立 てる 照 明 の  
豊 演 暮 り 必 須 し は ち ょ う 明 果  
の だ り が 場 所 や 提 案 による 効果  
こ の 場 所 に 対 し て どの 程度 の  
パ ー セ ン ト の 照 明 量 が 必要 かと  
て 考 へ る 際 に は 壁 面 材 質 の 色 調  
と 照 明 色 温 の 相 互 的 な 考 慮 が 必  
ず 要 とな る 事 を 忘 れ ず 考 へ る 事  
が 最 初 の 課 題 とな り 得 べ し

info@design-akari.com  
Tel : 04-7196-7142